

令和5年第6回福祉医療常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和5年8月24日（木曜日）		開会	13:30		会議場所		別海町議会 議場	
				閉会	14:17					
委員の出欠		3 番	高橋 眞結美	出席	6 番	宮越 正人	出席	9 番	小椋 哲也	出席
		10 番	外山 浩司	出席	13 番	中村 忠士	出席			
出席説明員	福祉部	福祉部長		福祉部次長		福祉部次長兼保健センター長		福祉部次長兼町民課長		
		干場みゆき	出席	田村 康行	欠席	小川 信明	出席	谷村 将志	出席	
		福祉課長		介護支援課長		老人保健施設事務長		訪問看護ステーション所長		
		石戸谷 友絵	出席	高橋 勇樹	出席	渡辺 久利	出席	堀 留美	欠席	
		地域包括支援センター長		居宅介護支援事業所長		町民課特命課長		福祉課主幹		
		九里 富恵	欠席	大道 詳子	欠席	上田 健一	出席	澤田 憲一	欠席	
		町民課主幹		保健課主幹		福祉課主査		介護支援課主査		
		西田 和弘	欠席	畠澤 みどり	欠席	大森 晴海	欠席	天神 幸子	欠席	
		介護支援課主査		地域包括支援センター主査		町民課主査		町民課主査		
		松本 静香	欠席	井川 仁	欠席	岩光 理代子	欠席	小野 絵里	欠席	
		町民課主査		保健課主査		保健課主査		保健課主査		
		木幡 友哉	欠席	山崎 さおり	出席	對馬 恵子	出席	佐伯 祐司	欠席	
		保健課主査		老人保健施設主査		老人保健施設主査		税務課主査		
		成瀬 広子	欠席	中田 幸規	欠席	佐藤 裕美	欠席	伊藤 武史	欠席	
	別海 病院	病院事務長		病院事務課長		病院事務主幹		病院事務課主幹		
		三戸 俊人	出席	棧木 直人	出席	奈良 司	欠席	大森 圭介	出席	
委員外の出席		議長	西原 浩				合計	1名		
事務局職員		局長	干場 富夫	主事	金子 茉樹		合計	2名		
傍聴者数		一般	0名	報道関係者	0名		合計	0名		

令和5年第6回福祉医療常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 10番 外山	13:30 開会
	出席委員5名、会期1日
委員長 10番 外山	挨拶
	【病院所管事務調査】
病院事務課長 榎木	挨拶及び概要説明
	・新型コロナウイルスの関係の状況が、前回の常任委員会から1カ月経ち病院の対応も変わっており本日報告させていただく。
委員長 10番 外山	議事2 その他
	(1) コロナ感染症の状況について
病院事務長 三戸	・新型コロナウイルスの感染状況だが、感染法上の位置づけが5月8日からインフルエンザと同様の5類へと変更となったことに伴い、原則禁止としていた入院患者への面会について7月3日より時間帯と場所を制限して緩和している。しかし、町内で感染の状況が引き続き見受けられる。
	顕著なのは、8月14日のお盆明け以降、陽性者も増加しているため、引き続き、町立別海病院での、コロナ専用病床の設置と発熱外来については継続している状況。
	コロナ病床の方は、高齢の方が1人感染しており、今現在、入院しているような状況もある。
	新型コロナ陽性者が先週、今週と増加している状況とあるため、別海病院としては引き続き、感染防止と感染者が発生した場合の診療体制を維持しながら、コロナウイルスと共存する新たな状況を見据えた医療体制の構築についても、並行して検討しているところ。
	基本的には、今後、これらの対応については、適宜、縮小することを検討しながら進めていきたい。
	新型コロナウイルス感染対策については、引き続き、当院において、感染者の治療と感染拡大抑制に努めていく。
委員長 10番 外山	挨拶
	病院 13:34 終了 休憩
	13:38 再開
委員長 10番 外山	挨拶
	【福祉部所管事務調査】
福祉部長 干場	挨拶及び概要説明
委員長 10番 外山	議事1 所管事務調査
	(1) 生涯を通した歯科検診について
保健課主査 對馬	・資料により説明。
	令和4年度実績で、合計1,981人の方が歯科検診を受診された。
	①1歳半健診を偶数月、②3歳児健診を期数月に実施しており、3歳児健診で虫歯のない子は、いい歯の子として表彰を行っており、令和4年度は109人中99人のお子さんがいい歯の子の表彰者となった。
	③園児の歯科健診は、町立保育園は福祉課、町立幼稚園は教育委員会、私立幼稚園は各幼稚園がそれぞれ実施しており、全ての歯科健診結果のデータの集約分析を保健課が行っている。
	検診データを基に、保護者向け、園向けのお便りをそれぞれ作成するほか、年長児

令和5年第6回福祉医療常任委員会 要点記録

			の保護者向け健康教室（永久歯歯ピカ相談）での情報提供に活用している。 また、5歳児の健診結果を基に虫歯のない子を表彰する5歳児いい歯の子表彰を実施しており、令和4年度は93人中47人のお子さんが表彰者となった。 ④学校歯科検診は、教育委員会が実施し、歯科健診結果のデータ収集と分析を保健課が行っており、分析したデータを基に、学校向けお便りの作成や学校での歯科指導の際に、児童生徒に情報提供を行っている。 ⑤妊婦歯科健康診査は、母子手帳の交付時に無料受診券を交付し、契約歯科医療機関で歯科検診を実施している。 開始当初、町内4歯科医療機関のみの契約だったが、受診者の利便性を考慮し、平成30年度からは、中標津町及び標津町の歯科医療機関とも契約し、現在は11件の歯科医療機関での実施が可能となっている。 ⑥歯周疾患検診は、年内1月から12月中に30歳、40歳、50歳、60歳、70歳になる方を対象に、無料受診券を発行し歯科11件の契約歯科医療機関での歯科検診を実施しており、40・50・60・70歳は健康増進事業補助事業、30歳については、町の単独事業として実施している。
委員長	10番	外山	質疑
委員	3番	高橋	・高校は管轄が違うから資料に載ってないのか。
保健課主査		對馬	・高校と契約している歯科医療機関で行っているようだが、高校のデータは町では持っていない。
委員	3番	高橋	・妊婦検診に産婦は含まれていないのか。
保健課主査		對馬	・妊婦のみ対象としている。
委員	13番	中村	・全国平均と町のデータ比較はされているのか。
保健課主査		對馬	・今は資料がないので答えられない。
委員	6番	宮越	・妊婦の受診率は毎年このくらいの受診率なのか。
			受診を促進するような広報等はしていないのか。
福祉部長		干場	・平成30年度から医療機関を拡充する前に比べると、受診率は少し上がってはきている。
			令和4年はコロナの影響もあり受診率がここ数年低い傾向にはあるが、町としては受診していただくよう働きかけは強調していきたいと考えている。
委員	6番	宮越	・妊婦の方々にはどの段階で広報しているのか。
保健課主査		對馬	・妊婦の母子手帳が交付される時にお伝えをしている。
			そのほかにマタニティークラスという助産師、栄養師と一緒に健康教育を4クールで設けさせていただいている中で、歯科も入って無料の受診券の説明をしたり、口の中のことから全身のことについての影響とかそういうことはお話しする機会は一応設けさせていただいている。
委員	3番	高橋	・健康増進事業の対象者だが、20歳だけが対象になっていないというのは何か理由があるのか。
保健課主査		對馬	・歯科検診を業務委託にする前に、町の総合健診に実際に私たちがスクリーニングという形で入らせていただいた時に、30歳の方の結果が悪い傾向があったので、30歳を対象にしたのが今も続いている状況。
			20歳の部分はまだ考えてはいない。
委員	13番	中村	・幼児の受診率はどうなっているのか。
			全国平均あるいは全道平均と町の実態というものを、比較しているのか。
			歯周疾患検診は、大変大事な取組だと思うが、今後、増やすための周知についての

令和5年第6回福祉医療常任委員会 要点記録

		基本方針はあるのか。
保健課主査	對馬	・幼児の受診率は100%。
		全国と全道との比較データはある。
保健課長	小川	・対象者の皆さんに全員に通知を出して主張しているが、広報及び日頃の検診等の活動において、啓蒙活動を続けてきたい。
		・なかなか上手く周知されてない分野かなと思う。
委員	13番 中村	働いてる方が多いと思うが、働き先、事業所だとか、職場関係に周知をお願いするか、ポスターを貼るとか、そういうようなことは考えておられるか。
		要するに、周知をもっと広げるっていうこと考えておられるか。
保健課長	小川	・現在は、広報・ホームページ等の活動が主になっている。
		対象者には、全員に通知を出しているところだが、先ほどおっしゃったような広報活動も、今後検討をしていきたいというふうに考えている。
委員	9番 小椋	・歯科検診は大きく3つの学校関係、妊婦、社会人になってからとあり、検診の結果をその後の指導等に生かしているということだが、妊婦、社会人への指導というのはどういう仕組みなのか。
		また、学校関係の指導というのはどのように行っているのか。
保健課主査	對馬	・妊婦と社会人については、契約の中で歯科保健の結果の指導等を歯科医院の方にお願いしているという段階で、データはこちらに来るので、その中で、その後、歯医者さんに継続でかかるとか、そういう状況を把握させていただいている。
		学校の歯科健診の結果については、データ取りをした後に、この学校はどんな感じの虫歯の罹患率だったよとか、歯肉炎が多いとか、子供たちの方に全町の学校と比べて多いね少ないねとかそういうことをお話ししたりというふうな活用をさせていただいている。
		・先ほど中村議員の方から全国の統計情報ないのかっていうのでちょっと調べてみたら、学校保健統計調査でそれが載っていたので、平成31年と古い情報だが全国平均0.69だった。
		そうすると、別海は2倍以上という形でかなり多いんですけど、その辺の分析というか、原因というものについてどう考えなのか。
保健課主査	對馬	・そのことについては把握していない。
委員長	10番 外山	・学力でいえば、根室管内は低いけれども、別海町は上位の方にいるとか出るんですが、そういう表現でいくと、本町の子供たちの歯についてはどのような表現になるか。
保健課主査	對馬	・地域が広いのと、検診をしている先生にもばらつきがある。
		イメージでは、海岸地区の子供たちに集中しているイメージで、それは何年も前からとなる。
		大分、低くなってきているが、海岸地区で羅臼町や根室までずっと虫歯の率が高い状況がずっと続いて、そこに別海町も入っている感じ。
委員	6番 宮越	・海岸地区が多いという状況はお知らせしているのか。
保健課主査	對馬	・幼稚園、保育園の年長さんのお父さんお母さん達にも、保護者の方たちともお話しする機会を設けており、小学校、中学校に入った時にも、子供たちにお話ししていますし、特に養護の先生たちはすごく頑張って、そのことについてお便りを出していただいたりとかそういう形で周知をしている。
		あと、尾岱沼の歯科医院の先生もとても協力的で、健康教育などもされているようだが、参加される方が少なく、聞いていただきたい方に聞いていただけないというお話は先生から伺っている。
委員	3番 高橋	・予防歯科の分野は3年ぐらい前から医療保険になったと思うが、そういうことに関する

令和5年第6回福祉医療常任委員会 要点記録

			内容はリーフレットに載っているのか。
保健課主査		對馬	・町のリーフレットには載っていない。
委員	9番	小椋	・各世代で虫歯の本数減らしていくっていう取組は、すごく健康維持という意味でも大事だと思う。
			定期的に3カ月に1回検査に行きましょうっていうのが定着してきている部分もあったりする。
			しかし、歯医者さんが2件しかなくて、定期的に行こうと思っても平日の昼間しか空いてないというのが多かったりして、歯医者側のキャパシティーの問題とかもあると思う。
			当然、別海歯医者さんも話を聞くと定期的に来てくださいとは言いが、なかなか空いていないという状況で、行政と歯科医でその辺の意見交換的なものを行う機会はあるのか。
保健課主査		對馬	・そういう機会はない。
委員長	10番	外山	・他にあるか
委員		一同	・なし
委員長	10番	外山	閉会挨拶
			14:17 閉会